

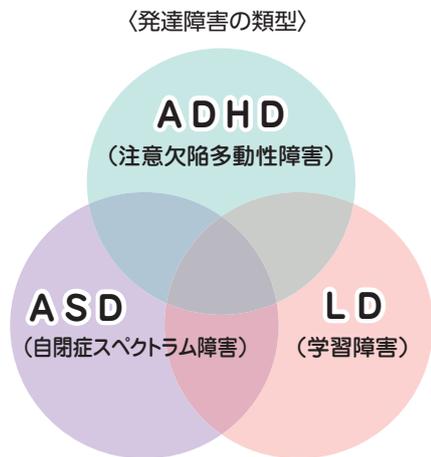
「人権のひろば」に対するご意見、ご感想は戦略企画室 広報広聴グループ または、人権室までお寄せください。

対話を通じて

暮らしやすい社会の実現を

発達障害とは

最近、ADHD（注意欠陥多動性障害）やASD（自閉症スペクトラム障害）といった言葉を書籍やテレビで見ることが多くなりまりました。これらは発達障害の類型の一つです。例えば、ADHD特有の症状の一つに書類作成の際、頻りに誤字や脱字を繰り返してしま



また、ASDの症状の一つとして、他人と柔軟なコミュニケーションを行うことが困難であったり、

いつも決まったやり方を好むなど独自のこだわりを持っていることがあります。さらに、文字を覚えることや、計算することが苦手なLD（学習障害）なども存在します。

それ以外にも発達障害者は光や音への感覚が過敏であることが多くという特徴もあります。もちろん特徴を組み合わせる＝発達障害というわけではありませんが、その症状や特性は人それぞれです。そのため、当事者の見た目などからは判断できず、「本当はできないのではなく、やらないだけではないか」といった誤解を生むケースも出てきてしまいます。

お互いの対話が大切

では、そのような誤解を生むこ

となく、お互いを尊重し、理解し合える社会を構成するためにはどうしたらよいのでしょうか？

1つの方法として、周りの人が本人の適正に応じた配慮を行うことや、本人が希望や配慮してほしいことを、周りに伝えやすい環境を作ることなどが考えられます。

例えば、通常の明るさではまぶしく感じて作業に集中できない場合は、明るさを落とした別室での作業を許可することで、高い集中力を持って作業をすることができるともありません。

また、「だいたい」や「おおよそ」などの曖昧な指示では、どのような作業をするべきかわからない場合は、数値などを示し、指示を具体的に言うといった方法も考えられます。ただし、当事者の特性によって配慮の内容は異なりしますので、よく話し合う必要があります。

市内で長年発達障害当事者や家族を支援されている精神保健福祉士・増田真一さんは

「ASDやADHDの特性は個性でも

〈配慮の一例〉



読み書きが困難な人に

文字の読み書きが困難な人が、タブレットや音声読み上げソフトで学習できるようにする。



指示理解が困難な人に

複雑な指示の理解が難しい人に、指示を1つずつ分けて伝えたり、イラストを駆使したりして説明する。



疲労・緊張しやすい人に

疲労や緊張が大きい人のために、休憩スペースを設けたり、業務時間などを調整したりする。

あり、周囲との関係によって障害か個性かの見方が変わります。個性は個々違いますので、個性を知るためにはじっくりとその人を知ってほしいです」とお話しされています。

よりよい社会に向けて

人は誰でも得意、不得意なことがあります。当事者の特性も同じように考え、私たちと当事者がそれぞれの個性を生かしながら、足りない部分を補うことが、お互いを理解し、支え合い、共生できる社会を実現する近道になるかもしれません。また、発達障害だから配慮を行うのではなく、すべての人がその人らしく働きやすい環境を整えていくことが大切ではないでしょうか。